

学習を自己調整できる生徒の育成

有松中学校 小川 弘

1 研究のねらい

中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」(2021)では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿を実現するために、「子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる」と示されている。また、なごや学びのコンパス(2023)では、自律して学び続ける姿として、「興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む。学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ。学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける」ことが重要だと示されている。

以上のことから、私は授業を通して、学習を自己調整できる生徒を育成したいと考えた。本校の生徒は、指示された課題に対して真面目に取り組むことができるが、すぐに教師に解法を求めてしまったり、なぜ間違えたのかを考え次につなげることができなかつたりすると感じる。木村(2023)は、『見通す』『実行する』『振り返る』の3つのフェーズに着目し、子どもたち自身が見通しを明確にもち、自らの学習を振り返り、次の学習につなげる大切さについて述べている。また、「子どもたちが課題・目標の解決・達成に向け、自ら学習活動を確認し、それを基に調節する機会を授業中につくることが、子供たちの確認／調節スキルを高めるうえで効果的」とも述べている。そこで私は、学習を自己調整できる生徒を「自ら設定した課題に工夫して取り組み理解を深め、正しく振り返って次の学習につなげられる生徒」と考え実践を行うこととした。

2 研究の内容

(1) 研究の手立て

各単元の終わりに、自由進捗学習を行う。既習した単元の内容を振り返らせ、自由進捗学習を通してどのような力を身に付けたいか、目標を設定させる。分野や難易度別で分けた学習プリントをロイロノートで配信し、設定した目標を達成するための自分に合った問題を選択し取り組ませる。さらに、振り返りシートを記入させることで、自らの学びを正しく振り返り、次の学習につなげることができるようにする。

【手立て①】課題に工夫して取り組ませる場面

木村(2024)は、『学習がうまく進まなかったり、時間が足りなかったりした際に他者に相談する』方略は、主体的に学習を進めるうえで非常に重要」と述べている。また、市川(2015)は「理解の深まった状態」について、自分の言葉で説明できる・質問に答えられる・類似問題に応用できると定義している。そこで、これらを踏まえ、生徒が工夫して課題に取り組むことができるように、授業一時間の前半を「もくもくタイム(個別)」、後半を「わいわいタイム(協働)」として設定する。前半の「もくもくタイム」は、解説プリントや解説動画を配信し、生徒が自らの学習到達度や興味に応じて閲覧できるようにする。後半の「わいわいタイム」は、仲間に質問したり、同じ問題を解いている仲間と考え方を共有したりして、他者と協働して学習できるようにする。これらの活動を通して、理解を深められるようにする。

【手立て②】正しく振り返って次の学習につなげさせる場面

木村(2023)は、「振り返る」フェーズにおいて、『なぜうまくいったのか』また、『なぜうまくいかなかったのか』といった視点で理由や原因を考え、それらを「次の学習で活かすことや活

かせる場面を考えることで、これまでの学習で身につけた能力を今後の学習で発揮することができる」と述べている。そこで、解決した学習プリントを振り返らせる際、「〇〇は、△△で間違えやすいので、□□するように注意する」や「〇〇は、△△と考えると解くことができるので、□□を意識する」と、定型文を設定し視点を与え、振り返りシートに記述させることで、正しく振り返って次の学習につなげることができるようにする。

(2) 検証方法

【検証①】

解説動画や解説プリントを取り入れた「もくもくタイム」や、仲間と解法などを共有する「わいわいタイム」を設定したことで、工夫して課題に取り組み、理解を深めることができたか振り返りシートの記述から検証する。

【検証②】

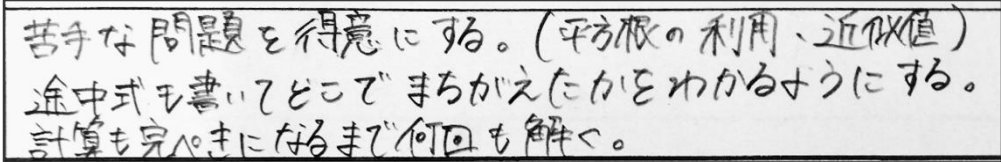
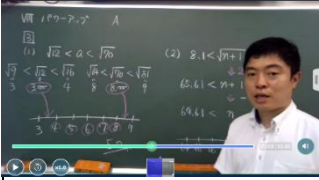
定型文を設定し視点を与え、振り返りシートに記述させることで、正しく振り返って次の学習につなげることができたか、振り返りシートの記述内容から検証する。

3 授業実践

(1) 単元 3年生「平方根」(本時 13/15)

(2) 目標 自由進度学習を通して、平方根の学習内容を理解できるようにする。

(3) 指導過程

教師の主な働きかけ	生徒の主な発言や活動
1 自由進度学習の目標を設定する場面 T: これまでの学習を基に、自分が苦手だと感じている部分や、さらに伸ばしたい部分を考え、目標を設定しましょう。	S: かけ算わり算はできそうだな。 S: 計算ミスが多いからどうすれば減らすことができるか具体的に目標を書こう。
 【設定した目標の一例】	
2 学習プリントを選択する場面 T: 設定した目標達成に向けて、自分に合った学習プリントを選択しましょう。	S: 計算はだいたいできているから難易度の高い計算の学習プリントを選択しよう。
3 選択した学習プリントに取り組む場面 【もくもくタイム(個別)】20分間 T: 今から20分間を「もくもくタイム」とします。解説動画などを活用して個人で学習を進めましょう。	 【解説動画の一例】
【わいわいタイム(協働)】20分間 T: それでは「わいわいタイム」にします。分からない問題を仲間に質問したり、同じ問題を解いた人で集まって解き方を確認したりしていいです。できた人は困っている仲間に	 【もくもくタイムの生徒の様子】  【わいわいタイムの生徒の様子】

言葉で説明して教えてあげることによって理解を深めよう。

【検証①】

解説動画や解説プリントを取り入れた「もくもくタイム」や、仲間と解法などを共有する「わいわいタイム」を設定したことで、工夫して課題に取り組み、理解を深めることができたか振り返りシートの記述から検証する。

○	理解を深めることができた。	28 人
△	理解を深めることができなかった。	5 人

7分7秒タイムをつかって友達に教えることで自分の理解度を上げる
ことができた。

・人に聞くと問題のどこがわからなかったのかまとめてから
聞いてほうがくわしくおしえてもらえることがわかった。

もくもくタイムのときにしっかりと集中して問題に取り組むことができた。わいわいタイムの時に
もくもくタイムのわからなかった問題とを友達におしえてもらってわかるようにしてから
問題に取り組む。正解につなげることができた。

<振り返りシートの記述例>

「もくもくタイム」や、「わいわいタイム」を設定したことで、工夫して課題に取り組み、理解を深めることができた生徒は 33 人中 28 人であった。これは、自分の学習到達度にあった解説動画を閲覧する活動や、他者の考えを聞いたり、他者に自分の考えを伝えたりする活動が有効であったと考える。しかし 5 人の生徒は理解を深めることができなかった。これは、他者とうまく関わり合うことができなかったことが原因であると考えられる。

4 振り返りシートを記入する場合

T: 問題プリントが 1 枚終わったらプリントの振り返りを記入しましょう。間違えたことやわかったことが具体的に分かるように記入しましょう。さらに、間違いを改善し、次につなげるためにはどうするとよいか考えて記入しましょう。

√の中を小さくして置くか正確かめるためには、素因数分解すると
よいことが分かった。また、有理化のときにも応用することはできなかった。
有理化する問題だけでなく√の中の数が大きいときには素因数分解で正確かめる
習慣ができてよくなった。

有理数と無理数に分けて√の中の数字を直してから計算すると
正確な答えがでることがわかった。1行ずつ直してからでいいのかな
ていふ。

【振り返りシートの記述例】

【検証②】

定型文を設定し視点を与え、振り返りシートに記述させることで、次の学習につなげることができたか、振り返りシートの記述内容から検証する。

○	次の学習につなげることができた。	25 人
△	次の学習につなげることができなかった。	8 人

「 $\sqrt{\quad}$ の中がまだ簡単な数字にできるのにそのまま書いてしまった。 $\sqrt{\quad}$ の中の数が多い時は、素因数分解して確認する習慣を付けたい」や「 $\sqrt{\quad}$ の大小を比較する問題では、数字の大きさだけで考えると間違いやすいので、数直線を使って大きさを整理する」と記述するなど、定型文を設定し視点を与え、振り返りシートに記述させることで、次の学習につなげることができた生徒は 33 人中 25 人であった。これは視点を与えることで、自らの学習をより振り返りやすくなったからであると考え。しかし 8 人の生徒は次の学習につなげることができなかった。「±のつけ忘れなく計算できた」や「ミスなく解くことができた」と記述するなど、課題点や注意点に目を向けさせることができなかったことが原因であると考え。

T：振り返りシートをもとにして、次回どの問題に取り組むか見通しを立てましょう。

S： $\sqrt{\quad}$ の中の数をかたんにする問題でつまづいたから、次回もう一度復習しよう。

(4) 考察

- 「もくもくタイム（個別）」と「わいわいタイム（協働）」を意図的に設定したことで、それぞれの時間を使い分け、それぞれのよさを生かして自ら設定した課題に取り組み、学びを深める姿が見られた。
- 「振り返りを書くことで、自分の状況を把握できたし、復習もできた」と述べる生徒がいるなど、視点を与え振り返りシートに記述させることで、正しく振り返って次の学習につなげることができた。
- 「わいわいタイム」で、他者との関わり合いがうまくできず、時間を有効活用できてない生徒がいた。チーム分けを行うなど、生徒同士を意図的につなぐことも必要であると考え。
- 次の学習を意識した記述ができなかった生徒が一定数いた。課題点や注意点に目を向けさせるなど振り返りの仕方について見通しをもたせる工夫が必要だと考える。

4 研究のまとめ

本研究では、学習を自己調整できる生徒の育成を目指した。生徒の多くは自ら設定した課題に工夫して取り組み理解を深め、正しく振り返って次の学習につなげることができた。

しかし、振り返りの記述が十分でない生徒が一定数おり、指導の工夫が必要であると感じた。木村(2023)は、「振り返るフェーズ」において、「自己評価をした後に、他者評価を実施して、客観的な評価を得ることが大切」とも述べている。これらも踏まえて、振り返りの書き方や活用方法について、今後さらに深めていきたい。

【参考文献】

- 中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（2021）
名古屋市教育委員会「なごや学びのコンパス」（2023）
木村明憲「自己調整学習－主体的な学習者を育む方法と実践」（2023）
木村明憲「自己調整方略－主体的な学びを実現する 46 の手立て」（2024）
市川伸一『教えて考えさせる授業』の趣旨と動向（2015）